

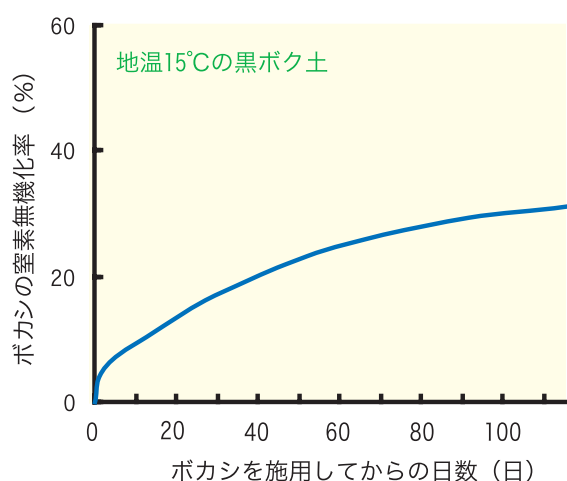
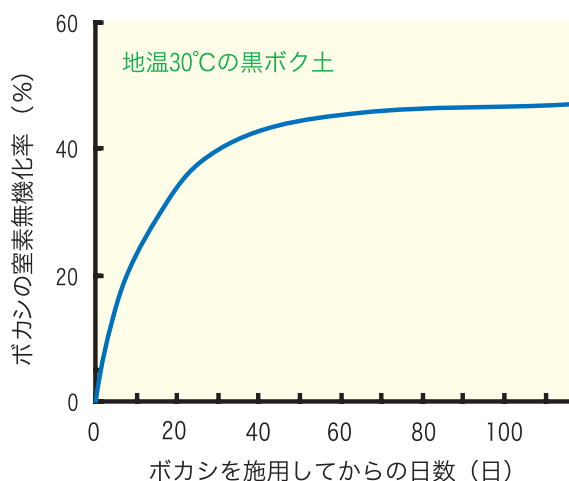
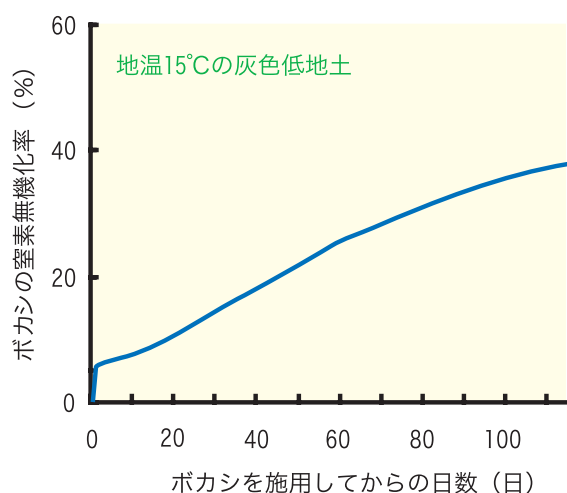
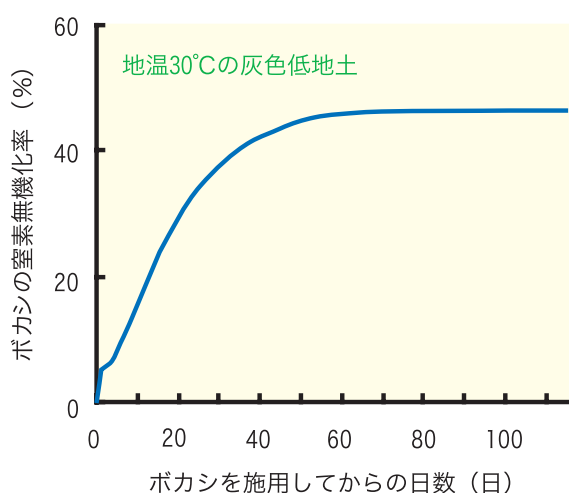
【研究速報】

温度で変わる窒素供給

研究部研究課
土壌診断チーム

春先の温度の低いときに施用したボカシと、夏の温度の高いときに施用したボカシとでは無機化する窒素量が異なります。そこで、推定式を用いて地温が30℃ または15℃ の土壌にボカシを施用したときの窒素の無機化率（ボカシに含まれる全窒素のうち土壌中に放出された窒素の割合）を計算しました。その結果、地温30℃ の灰色低地土や黒ボク土にボカシを施用すると、施用後40日目までにボカシに含まれていた窒素の約45%が土壌中に放出されました。地温15℃ の灰色低地土や黒ボク土にボカシを施用すると、施用後100日目の時点で灰色低地土ではボカシに含まれていた窒素の約35%、黒ボク土では約30%が土壌中に放出されました。

（加藤 茂）



図。地温や土壌の種類が異なるときに、施用したボカシから
土壌に放出される窒素の割合（＝無機化率）